

片平まつりで避難所運営ゲーム HUG を提供しました(2013/10/12)

場所：片平キャンパスさくらホール（仙台市）

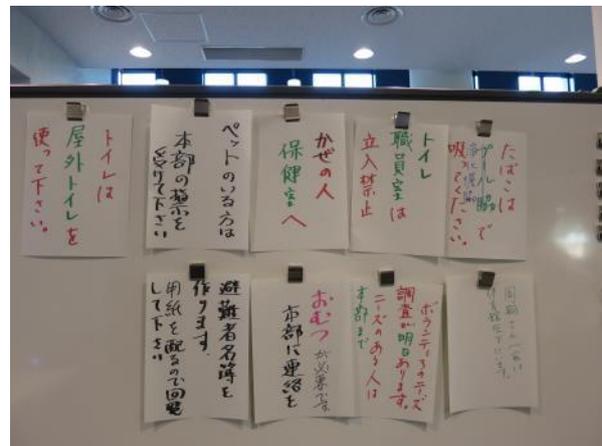
テーマ：「災害が発生すると避難所にたくさんの方がやってきます。あなたならどうしますか？」

10月12-13日（土、日）に片平まつりにおいて災害医療国際協力学研究室全員により、災害医学部門の一般展示として「避難所運営ゲーム HUG」を提供しました。避難所にはさまざまな問題をかかえた沢山の被災者がやってきます。また、避難所に特有の出来事や課題が発生します。避難所の設置は市町村が行いますが、運営は避難者を含めて自主的になされるものですので、誰しもが避難所に入る可能性がある災害時への備えとして大変有用なものです。

ゲームは4-6名の参加者に対して、約15分間の説明ののち、5分間で最近食べたおいしいものや自分の体験した最大震度を話していただくアイスブレイキング、ゲーム60分間、振り返り10分間という1コース約90分間として開催され、2日間で合計6コースを実施しました。90分間という参加時間は一般の見学者にとって敬遠されがちでしたが、最初からHUGを目的に来てくれた参加者もあり、実際にゲームが始まると時間のたつのも忘れて運営に熱中してくれる参加者がほとんどでした。また、小学生、高校生から大学院生の参加や、実際に運営に携わった経験者の参加、男女平等の関わりから、運営に関わるチームの多様性も実感されました。参加者だけではなく、ブースに立ち寄った方々によりギャラリーが形成され、ロールプレイングとしての教育・学習効果の高さも実感されました。運営に携わった災害放射線医学分野、災害医療国際協力学分野の皆さま、本当にご苦労様でした。



HUG をする参加者とギャラリー



掲示板

文責：江川新一（災害医学研究部門）